

昭和学院中学校・高等学校

〒272-0823 市川市東菅野2-17-1 TEL 047-323-4171~5

http://www.showa-gkn.ed.jp/js/ FAX 047-326-5310

昭和学院 広報

第39号

2022.3.24(木)

## 令和3年度 卒業証書授与式



「卒業の言葉」を述べる山田梨央さん

去る3月5日(土)に、令和3年度第73回高等学校卒業証書授与式が本校メインアリーナで挙行された。本年度の卒業式も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、卒業生286名と教職員のための式となった。

今年度の卒業生は、在校生として本校の卒業式を見る機会がないまま卒業の日を迎えることとなり、戸惑いの気持ちを抱く生徒も多い中での式となった。しかし、そんな中でも、昭和学院で学んできたことへの自信と、最高学年としての自覚をもって堂々と真っ直ぐに前を向いて会場に入場する姿、呼名され起立した時の姿は大変凛々しかった。大井校長の式辞では、昨年開催された夏季東京オリンピックに女子バスケットボールの代表として出場した本校の卒業生でもある赤穂ひまわりさんの言葉を紹介すると共に、夢や目標を持つこと、それを実現するために自らで決断すること、どんなことがあっても粘り強く挑戦し続けることを忘れずに、昭和プライドをもって今後の人生を歩んでいってほしいという励ましの言葉が述べられた。続いて、生徒代表の山田梨央さんからの「卒業の言葉」は、3年間の思いと、友人、仲間、何があっても一番近くで支えてくれた家族への感謝の言葉が述べられた。楽しかったことも辛かったことも



総代の栗原 朗さん

その全てが良い思い出であり、昭和学院で過ごした日々から、どんな困難にもめげずに努力し、乗り越える力を得ることができたという力強い言葉は、会場にいる全員の心に響いたことだろう。また、今年度の卒業式

もWeb配信され、出席できなかった保護者にとっても心温まる式となった。

その後、教室に戻った生徒たちは一人ひとり卒業証書、保護者からの花束や記念品を受け取り、担任からの最後のメッセージを真剣な眼差しで聞きながら、思いのこもった言葉の一つひとつを胸に刻んでいた。最後は、それぞれが選択したそれぞれの道に進んでいく生徒たちから、これまでの自分、これからの自分についてクラスメイトの前で語られた。しっかりと自らの言葉で語るその姿に、3年間の成長を感じた。

卒業生の高校生活のほとんどは、思い描いていたものと違ってしまったりかもしれない。部活動も行事も、準備してきたことや練習してきたことの全てを発揮出来ず、悔しい思いのまま終わってしまったことが幾度となくあっただろう。それでも、その度に気持ちを立て直し、その時の状況で出来ることを精一杯やろうと諦めずに試行錯誤し続け頑張ってきた生徒たちに心からの拍手を送りたい。たくさんの勇氣と高い誇りを抱いて昭和学院を巣立っていった彼らの未来は、我慢の連続だった毎日を覆い尽くすほどの明るく楽しい笑顔溢れる日々となることを願っている。



最後のクラス写真



笑顔あふれる卒業生

# SHOWA GAKUIN

## 探究フェスティバル

2月16日(水)、第1回探究フェスティバルを開催した。コロナ禍で大きな制約を受けたが、「生徒の手で行う探究版文化祭」という趣旨自体は達成できたように思う。

- ・フィリピンのフェアトレードチョコレートの販売
- ・マスごとに生徒が調べた内容に関するクイズが出題される人間双六
- ・生徒自身が寄付をし、その内容に関するプレゼンテーション
- ・オフィシャルパートナーであるQQ Englishの経営課題の分析・提案を行うコンペティション
- ・iUの大学生による動画制作ワークショップ



委員会の様子

など、探究した内容を多様な方法で表現した。

また、今回のイベントは、  
①webページの制作 ②SNSの運営 ③チラシやポスターの作成 ④パンフレットの作成など、全て実行委員が行った。

今回の探究フェスティバルの実行委員長として、主にホームページの作成と全体のマネジメントを行いました。初めてという事もあり上手くいかないことが多々ありましたが、そのたびに実行委員のメンバーがフォローに入ってくれたり、中山先生に上手くいくコツなどを教えていただいたりして、最終的には生徒だけでミーティングを工夫して行えるようになりました。イベントを振り返ると、様々なことを得ることができ、自分一人では絶対にできなかったと実感しています。実行委員のメンバーが内発的に自分の役割を果たし、また先生方のサポートのおかげで無事開催することができたので感謝の気持ちでいっぱいです。

篠原佑介さん(2-K)▶

### 実行委員長



実行委員会のみなさん

ゼロからのwebページ作成や委員会の運営、SNSの運用まで生徒自身で行うというのは、日本であり前例のない試みとなった。ガントチャートでタスクをマネジメントしたり、「もしドラ」を読みながら自分のリーダーシップについて悩んでいる姿を見て、生徒たちのポテンシャルの高さ、成長の速さに舌を巻くばかりであった。同時に、本校には挑戦する意欲も能力もある生徒たちが多く、彼らは活躍の場を待っている、ということを感じた。

今後、より一層「生徒が中心となる学校運営」を目指し、生徒たちと我々教職員が協働して、より魅力的な学校を創っていきたい。

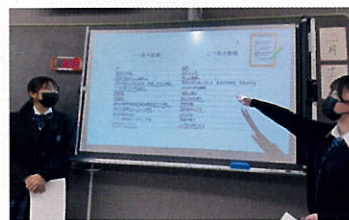
### 高3

高校3年生は、自身の将来就きたい職業や学びたいことに関連したテーマを設定し、調べた内容や自分の考えをまとめ、プレゼン発表をした。準備期間では、多くの人に興味関心を持ってもらえるような発表資料の作成、パフォーマンスの練習等、試行錯誤している様子が見られた。当日は分野ごとに分かれ、各分野に見合った装飾もしたことで、特徴と個性をより際立たせることができたように感じた。他学年や保護者の方に見学していただけなかったことは残念であったが、今後この経験を様々な場面で役立ててほしいと願っている。



文学、教育、国際理解、経済、政治、情報など文理を問わず、生徒が興味のあるテーマを選び、探究した成果

をクラスをまたいだ分野別グループで発表を行った。以前までは多くの生徒が「調べる=既存の答えをネットで探す作業」となっていたが、今回は自らアンケートを実施したり、参考文献で資料を集めたりして仮説の立証を試みた。他クラスの生徒と議論をしたり、原稿を考えたりする姿も見られた。次年度の活動にも大いに期待したい。



### 高1

企業の課題に関する原因分析から解決策の提示までのプレゼンテーションを行った。「SNSを利用してQQEをバズらせるには?」「QQEがSDGsの文脈でフィリピンをどうhappyにするか?」「オンラインのkids英会話をどう広げるか?」の各テーマについて、グループごとに独自のアイデアを発表した。「同じテーマであっても異なる視点で解決策が提示できることがわかり新鮮だった」、「もっと深く探究できたのではないか」と振り返る生徒もいた。他の分野にも視野を広げ、フェアトレードチョコレートの販売を企画・実施するグループも現れた。自分たちの力で解決策を考え発表することを通じ、深い学びを得ることができたようである。



中2は、「私たちが社会人になったときの未来予測をしてみよう!」とテーマを設定した。発表グループ

は、コースと学級を越えて構成し、グループ内には初めて関わる生徒が多い形であった。そのため、最初はコミュニケーションをとることに苦労している姿が多く見られたが、次第に明るい交流が見られるようになった。「すごろく」



「人形劇」「かるた」「釣り」など多くのアイデアが生み出され、当日は生徒たちの充実した表情を見ることができた。この経験を生かし、来年度はより充実した探究活動を期待する。

生徒たちにも馴染みのある「寄付」という行為を通じて様々な社会課題の解決に取り組もうと「寄付の教室」を実施した。「寄付」という行為はどのようなものなのか、どのような支援先や支援方法があるかを調べていく中で各生徒が可能な範囲で支援することができる方法を模索してきた。フェスティバルではポスターセッションを行ったり、物品の寄付を募ったりするなど学んだことを自分たちなりの言葉で伝えることができていたようだ。このような支援は1回で完結するものではない。彼らの学びが今後も続いていくことを願っている。

中1



# SHOWA GAKUIN

## 中1 卒業生のお話を聞く会

2月5日(土)オンライン授業期間の2時間を使って「卒業生のお話を聞く会」を実施した。荒木さん、長谷部さん、丸本さん、満江さんの4名がそれぞれの失敗談や経験、今の仕事のやりがいについて熱く語ってくれた。誰かの役に立ちたいという思い、人間性を磨くことの大切さ、自分がやりたいことを貫く気持ち、今後の目標などそれぞれの思いが詰まった話であった。生徒たちは自宅からの参加であったが、Googleフォームを使ってのアンケートにはたくさんの質問が寄せられ、真剣に聞いている様子がうかがえた。教員がピックアップをして質問の一部をその場で答えてもらったが、授業終了後には卒業生が1人1人に丁寧に回答をしてくれた。また、生徒からの「お礼の言葉」も4人の卒業生に直接メールで送信をした。感謝の気持ちを長文で書いた生徒も多く、卒業生からも「また何かできることがあったらいつでも呼んでください。」と嬉しい言葉をいただくことができた。お互いの気持ちが通じ合い、新しい形での有意義な「卒業生のお話を聞く会」となった。



質問に答える卒業生



お話しくださった卒業生

## 中3 オーストラリア語学研修代替行事



ビデオレターの撮影

中学3年生は2月21日(月)から3日間、オーストラリア中学生との「ビデオレター交流」を行った。これは今年度のオーストラリア語学研修が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったことを受け、その代替行事として計画・実施されたものだ。クラスを超えてIpswich Grammar School, Ipswich Girls' Grammar School, Saint Stephen's College, Brisbane Christian College, West Moreton Anglican Collegeの5校に分かれる班編成をし、まずは現地コーディネーターのターニャさんのビデオメッセージを視聴した。そこでオーストラリアの中学生が知りたいことについての情報を得た上で、ビデオレターの構成を考え、2日間かけて紹介したいものを撮影した。ネイティブの先生方から助言を受けながら英語で分かりやすく説明できるよう、真剣に取り組んだ。紹介したものは学校の様子、部活動、日本の遊び、書道、お茶、お弁当、特技、などなど…取り組みは学校だけではなく、家でも行われ、生徒たちから「ビデオレターで繋がりたい。」という熱意を強く感じた。最終日は各校で、ビデオレターの上映会を実施した。工夫を凝らしたビデオレターはどれも楽しく、素晴らしい出来であった。ビデオレターの他に、自分たちで作ったお箸に手紙を添えて、プレゼントとして送った。「どんな返事が届くのだろう。」「向こうの学校の人と友だちになりたいなあ。」と、楽しい交流に胸を躍らせていた。



上映を終え笑顔の生徒たち

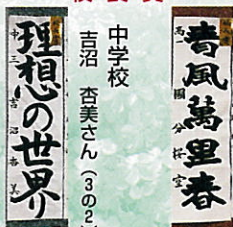
## 書き初め展

会期：2月24日～3月2日

### 校長賞



書き初め展の様子



中学校  
吉沼 杏美さん(3の2)



高等学校  
國分 桜空さん(1C)

## 中2 企業出前授業



中学2年生は、2月9日(水)に複数の企業を本校にお招きして出前授業を行っていただいた。生徒たちは普段関わることのない社会の話を目の当たりにし、今まで知らなかった世界を知ったことで新しい視点を持つことができたのではないだろうか。生徒の感想には、「自分が職業調べで調べていたことよりも、細かいことまで知ることができて良かった」「いつも何気なく食べたり手に取ったりしているものが、色々な人の思いや案などで成り立っていることを知り、そのような人たちがいるから自分たちの生活が成立していると感じた」「商品を開発してから売ることができるようになるまで、3年半も時間がかかったということに驚いた」との記述があり、将来のことを友人と一緒に考える貴重な機会になったことと思う。来年度においては大学等の上級学校について知ることがテーマとなっており、将来に向けてより具体的なビジョンを持てるようになることを期待している。



## エンパワーメントプログラム

夏休みに実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で12月14日(火)～18日(土)の5日間で行われた。今年は高1、高2のIA・TAコースの生徒と中学2年生から高校2年生の希望者が計71名参加した。2名のイングリッシュネイティブ講師、国内の難関大学に通う留学生12名とグループ形式のディスカッションやプレゼンテーションをすべて英語で行い、6名の生徒に留学生1人がついて5日間英語漬けの日々を過ごした。



初日から積極的に講師や留学生と交流し、笑顔で懸命にディスカッションに参加していた。特に印象的だったのは、生徒同士の会話も英語を使おうと努力している姿である。休み時間に生徒に話かけると、「先生、日本語使わないでください。」と言われるほどであった。初めは多少の緊張も見られたが、日々経験を重ねることに自ら英語を発信する喜びを感じていたようである。さらに、ある生徒同士のアーギュメントでは、互いの意見を尊重しあう場面が見られた。感情のこもった発言が飛び交っていたが、互いに本気で意見をぶつけている姿を見ると、単に英語力だけでなくコミュニケーション能力の向上にもつながっていると感じた。そして、最終日のプレゼンテーションは、聴衆を惹きつける、堂々とした素晴らしい発表であった。



充実した5日間を過ごした参加者のみなさん

## 高2 マイゼミ作品展

会期：3月3日～3月12日

### ▼ 書法研究・服飾研究選択者の作品



# SHOWA GAKUIN

## 活躍する部活動

### 高校 バスケットボール部 (女子)

### ウインターカップ2021 第3位入賞



夏のインターハイでの悔しい敗戦から4ヶ月、令和3年度第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会 softbankウインターカップ2021

は12月23日～28日に、東京体育館・駒沢体育館で開催された。

本校は1回戦から出場し、高知中央高校と対戦をした。高知中央高校は昨年準々決勝で対戦した相手である。試合開始から高知中央高校に試合の指導権を握られて苦しい戦いとなったが、残り2秒で1年生の植栗がシュートを決めて75-74と逆転しリベンジが成功した。2回戦は倉敷翠松高校との対戦となった。倉敷翠松高校には留学生を中心とした攻撃を仕掛けられ、苦しい試合展開であったが第4クォーターに入り持ち前の機動力を生かしたバスケットを展開して87-76で勝利した。3回戦は関東大会でも戦った八雲学園との対戦となった。硬さの目立つ本校は試合早々からミスを連発してしまい相手を追いかける展開となった

が、第3クォーターに一気に逆転して91-67で勝利し、今大会で初めてメンバーが全員出場した。

準々決勝は岐阜女子高校との対戦となった。試合開始から一進一退の攻防が続き第4クォーターの終盤で5点リードをしていたが相手の猛攻で最終的には67-65で勝利した。準決勝は優勝候補の桜花学園と対戦した。序盤から試合の指導権を握られ苦しい戦いとなったが選手達は一生懸命に戦うも、攻守に勝る桜花学園に110-72と惜敗した。連日の厳しい試合をチーム一丸となって戦い抜いた選手達に感謝したい。

#### 主将の 西 ファトゥマ 七南さん

今大会は初戦から準決勝まで苦しい試合が続きましたが、私たちはどの試合でも全力でプレーすることができ、第3位入賞という結果を残すことができました。これは、昭和学院の生徒のみなさんや先生方の応援が私たちに大きな力を与えてくださったのだと思います。コロナ禍の中、沢山の方が会場や画面越しで熱い声援を送ってくださったことに感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



### 中学 ハンドボール部 (女子)



12月23日から26日に徳島県で開催された第30回JOCジュニアオリンピックカップに出場した。予選1戦目は初戦の緊張もあり、シュートを決めきることができず惜敗した。翌日行われた予選2戦目は、大差をつけなければ決勝トーナメントに進出できないという厳しい条件で挑むことになったが、自分達らしいハンドボールを楽しんでいることが感じられる試合であった。決勝トーナメントに進出することはできなかったが、最後まで諦めることなく、後輩に戦う先輩の背中を見せてくれた3年生の選手達にありがとうと伝えたい。

キャプテンの長瀬優月さん

JOCは選抜が組めず、昭和学院が千葉選抜チームとして出場することになりました。結果を残すことはできませんでしたが、1人ひとりが3年間の全てを出し切った、心に残る大会でした。



### 中学 空手同好会



八月、山口で行われた全国大会はJRも止まるほどの大雨で始まり、新型コロナウイルスが蔓延する中、感染対策を徹底し、保護者ですら入館できない状態で大会は進行しました。空手は対人で突きや蹴りを行いポイントを取る「組手」と各流派の演武を行う「形」がありますが、根津さんは女子の「形」で出場。上級生と混じっての奮戦となりました。断トツのセーパイとクルルンファで勝ち進み、続く試合では0.06点差で惜しくも決勝進出ならず。来年度、更なる応援のほどよろしくお願い致します。

#### 根津唇実さん

今年は優勝するため、また、本番で100パーセントの力が出せるように、しっかり指摘されたところを改善して3月の試合に臨みたいと思っています。応援よろしくお願いします。



### 自転車競技同好会



私たちは現在高校生5人で活動している、去年設立したばかりの歴史の浅い同好会です。設立間もない同好会ですが、千葉県の新人大会において個人競技で入賞するだけでなく、学校としても総合優勝することができ、全国大会への出場も決定しました。自転車競技と聞くとなんとなく難しく、ハードルが高いように感じるかもしれません。しかし、部員の半数以上は高校に入学してから自転車に乗り始めました。また本格的に競技で活躍したい、楽しくサイクリングをしたい、体力の向上を目指したいなど選手の目標も様々なので個人のレベルに合わせて練習内容を調整することができます。まだまだ向上の余地はありますが、選手同士協力して体力・技術力の向上を目指して日々練習に取り組んでいきたいと思っています。



### 吹奏楽部

本年度は、第27回管楽合奏コンテスト全国大会に中・高共に出場を果たすことができた。中学校はS部門、高等学校はA部門に出場し、それぞれ優秀賞を受賞した。中学生が単独で全国大会に出場できたのは、今回が初めてである。また、第7回全日本ブラスシンフォニー本選大会に出場し、2年連続で準優勝に輝くことができた。この大会ではバトン部にも一緒に出場して頂き、昭和学院にしかできないパフォーマンスを全国にアピールできた。アンサンブルでは高校生が2団体が全国大会に出場し入賞を果たした。個人コンクールでは高校生2名が全国大会出場を果たし、中学生も上位大会で入賞することができた。練習が思うようにできない状況であったが、練習の成果を出すことができた。しかし、同時にどの大会でも全国の最高位受賞者(団体)との差を感じた1年でもあった。来年度は頂点を目指し、日々の練習に励んでいきたい。



# SHOWA GAKUIN

## 春の全国選抜大会などに出場する部活動・選手の紹介

### 高校 ハンドボール部(男子) 池畑 大先生

第45回全国高等学校ハンドボール選抜大会  
愛知県 スカイホール豊田、他  
3/23(水)~29(火)



### 高校 ハンドボール部(女子) 佐藤 奏吉先生

第45回全国高等学校ハンドボール選抜大会  
愛知県 スカイホール豊田、他  
3/23(水)~29(火)



### 高校 新体操部 塩屋 恵美子先生



第37回全国高等学校新体操選抜大会  
熊本県立総合体育館  
3/18(金)〔個人〕太田 詩月  
19(土)〔団体〕

### 高校 ソフトテニス部(女子) 高橋 章典先生



第47回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会  
愛知県日本ガイシホール  
3/28(月)~30(水)

### 中学 空手同好会 飯野 誠也先生

JOCジュニアオリンピックカップ  
第16回全国中学生空手道選抜大会  
〔形競技〕根津 暦実  
京都府 京都市体育館  
3/30(水)

### 高校 自転車競技同好会 大坪 正典先生

全国高等学校選抜自転車競技大会  
〔トラック競技〕宮崎 太志  
福崎 裕太  
〔ロード競技〕福崎 裕太  
〔オープニングレース〕櫻井優太郎  
大分県 別府競輪場〔トラック競技〕  
オートボリス〔ロード競技〕  
3/22(水)~25(土)

### 中高 吹奏楽部 牧野 宏哲先生

第24回日本ジュニア管打楽器コンクール本選考会  
ソロ部門：3/22(火)  
菅野 有葵 川端 志弥  
アンサンブル部門：3/25(金)  
打楽器四重奏  
和田 萌々香 橋谷田 杏  
岡田 吏世 江成 創玖



## 生徒会



昨年12月17日(金)にオンライン選挙が実施された。生徒会役員は1月から12月が任期となる。会長の鍋田君は「私たちは、生徒と教師が共創しながら様々なことに挑戦し続ける学校づくりを目指します。生徒会の役割はまず率先して共創し、大井校長先生が日頃からおっしゃっている「3つのション(ミッション・パッション・アクション)」を行動に移していくことだと考えています。」と、意気込みを語っている。

会長	鍋田 權	(2 B)
副会長	福崎 裕太	(2 B)
副会長	飯田 大煌	(1 E)
書記	寺田 翔流	(2 K)
書記	山崎 優也	(1 E)
会計	新田 羽美	(2 J)
会計	本郷 まりも	(1 D)
会計監査	飯島 隆生	(2 I)
会計監査	金子 舞花	(1 E)

## 奨学会だより ~活動を振り返って~

奨学会員の皆様、日頃より奨学会活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

コロナウイルスの感染拡大がまだまだに収まらない中、オミクロン株という変異株も出てきて出口の見えない日々が続いております。皆様も感染拡大を防ぐために日々努力を重ねられているものとお察しいたします。私の家庭でも感染しないように子供たちに注意を促しており、子供たちもマスク着用、うがいや手洗い、黙食などに取り組んでおります。

修学旅行などの学校行事の中止や縮小、部活動の縮小など子供たちの貴重な学校生活も制限される中、奨学会活動も昨年度同様にくつもの行事が中止になりました。その中で、美化活動として、昨年度の通学路のごみ拾いに続き、本年度は11月に2回ほど校外の落ち葉拾いを行いました。コロナ禍の影響によりこの落ち葉拾いしか奨学会の行事はできませんでしたが、多数の皆様にご参加いただきまして、校外の美化を達成できたの



▲美化作業の様子



▲昨年6月に開催された常任理事会の様子

ではと感じております。ご参加された方々、誠にありがとうございました。

昭和学院は昨年度に80周年を迎えました。長い伝統と素晴らしい歴史に彩られた昭和学院の奨学会会長を仰せつかってからの2年間はコロナ禍の影響で数々の奨学会活動が中止となってしまいました。前会長を始め役員の方々から引き継いだものを考えると本当に残念であります。

私の2人の子供は9年間、昭和学院でお世話になりましたが、この春卒業となりました。次年度以降は会長、副会長、会計、各部長、各学年代表が丸一となってコロナに打ち勝って、素晴らしい奨学会活動を行っていただければ幸いです。

浅学非才な私ですが、山本理事長、大井校長先生を始め、多くの教職員の皆様、奨学会会員の皆様、副会長を始め奨学会理事の方々には、多くのご指導・鞭撻を賜りましたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。最後に、昭和学院中学校、高等学校並びに奨学会の益々の発展をご祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。



▲自習室で学習する生徒たち



▲会長 木下主税

# SHOWA GAKUIN

## 主な合格状況

(3月10日現在)

### 四年制大学

#### <国公立大>

一橋大学	1
筑波大	1
千葉大	2
東京都立大	1

#### <私立大学>

早稲田大	5
上智大	1
東京理科大	2
明治大	8
青山学院大	2
立教大	8
中央大	2
法政大	7
学習院大	3
同志社大	1
立命館大	2
國學院大	9
明治学院大	4
獨協大	2
成蹊大	2
成城大	2
武蔵大	2
学習院女子大	2
日本女子大	2
東京農大	10
東邦大	2
北里大	1
杏林大	1
順天堂大	10
日本大	29
東洋大	12
駒澤大	4
専修大	6
大東文化大	2
亜細亜大	7
帝京大	11
国士館大	4
芝浦工業大	1
東京電機大	3
東京都市大	4

武蔵野大	4
神田外語大	3
文教大	3
大妻女子大	6
共立女子大	6
駒沢女子大	2
実践女子大	3
昭和女子大	9
フェリス女子大	1
跡見学園女子大	2
石巻専修大	1
江戸川大	2
桜美林大	3
大阪体育大	2
神奈川工科大	2
川村学園女子大	2
関東学院大	1
近畿大	1
敬愛大	2
恵泉女学園大	1
神戸松蔭女子大	1
国際医療福祉大	1
国際武道大	1
産業能率大	4
秀明大	1
淑徳大	1
城西国際大	6
女子栄養大	3
松蔭大	1
湘南工科大	4
尚美学園大	1
昭和音楽大	1
聖徳大	3
洗足学園音楽大	1
仙台大	1
大正大	2
高千穂大	2
拓殖大	5
玉川大	3
多摩美術大	1
千葉工業大	5

千葉商科大	5
中央学院大	1
中京大	1
つくば国際大	1
帝京科学大	8
帝京平成大	7
桐蔭横浜大	1
東京医療学院大	1
東京医療保健大	6
東京家政大	1
東京家政学院大	1
東京経済大	5
東京工科大	6
東京工芸大	4
東京国際大	1
東京情報大	3
東京純心大	1
東京女子体育大	2
東京聖栄大	2
東京通信大学	1
東京福祉大	1
東京富士大	3
東京薬科大	1
東都大	1
二松学舎大	1
日本獣医生命科学大	1
日本工業大	5
日本女子体育大	4
日本体育大	1
文化学園大	1
文京学院大	1
武蔵野美術大	2
明海大	2
明星大	2
目白大	4
山梨学院大	1
立正大	5
流通経済大	4
了徳寺大	6
麗澤大	4
和洋女子大	9

### 短期大学

昭和学院短大	4	千葉経済大短大	1	東邦音楽短大	1
大妻女子大短大	3	帝京短大	1	日本大短大	2
共立女子短大	4	戸板女子短大	1	山野美容芸術短大	1
女子栄養大短大	3	東京家政大短大	2		

### 大学校・専門学校

水産大学校	1	新宿医療専門学校	1	華学園栄養専門学校	1	他	27
-------	---	----------	---	-----------	---	---	----

### 就職

デンソー、ENEOSサンフラワーズ

### 延合格数

四年制大学 399 短期大学 23 専門学校 30 就職 2

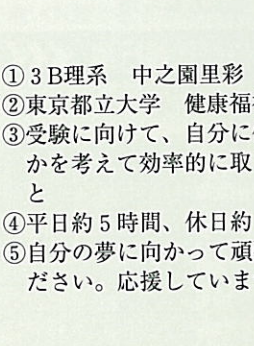
## 合格者の横顔

みなさんおめでとうございます。質問は次の①～⑤です。

- ①クラス・文理の別・氏名 ②現在までの合格校
- ③努力したこと ④平均学習時間(平日・休日)
- ⑤後輩へのアドバイス



- ① 3 A文系 栗原 朗
- ② 一橋大学 経済学部  
明治大学 政治経済学部  
立教大学 経済学部  
学習院大学 経済学部 他
- ③ 高校1年次から学習を積み重ねて知識を蓄えていた。
- ④ 平日3～5時間、休日6～8時間
- ⑤ 入試突破のためには学力はもちろんですが、各大学の情報収集、家庭内での意見交換、受験戦略、当日までの体調管理など、多くの要素が必要です。決して学力以外の要素を軽んじることなく、日々励んで下さい。



- ① 3 B理系 中之園里彩
- ② 東京都立大学 健康福祉学部
- ③ 受験に向けて、自分に何が必要かを考えて効率的に取り組むこと
- ④ 平日約5時間、休日約8時間
- ⑤ 自分の夢に向かって頑張ってください。応援しています！



- ① 3 C理系 飯田萌愛
- ② 筑波大学医学群看護学類
- ③ 定期テストで常に上位を取るように勉強と部活動を両立していた。
- ④ 平日4時間、休日10～12時間
- ⑤ 1日で勉強の成果は出ないですが、日々の積み重ねで絶対に結果が出るので最後まで諦めずに頑張ってください。

## 進路指導を振り返って



▲ 進路指導部長 松田ひとみ教諭

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年度の在籍生徒数は286名。学校推薦型・総合型の受験方式での四年制大学での合格者数は、筑波大学・千葉大学等合計145校、高校3年生全体の50%程度です。また、一般選抜に挑戦した生徒は122名。最後まで粘り強い努力を続け、進路を決定しました。

今年度もコロナの影響が受験にも及びました。対面型オープンキャンパスに参加できないまま志望校を決めざるをえない受験

生もいました。予備校では昨年度に続き、「就職に強い、資格に直結する学部や情報系が人気」「地元志向の継続」といった分析もされました。今年度は共通テスト2日目でした。もともと難化は予測されていましたが、7科目の平均点が過去最低点となり、出願に苦慮する受験生がいました。しかし、基礎・基本を徹底的に理解し、問題演習を重ね、高得点だった受験生もいます。

高校1年生、2年生の皆さん、受験は早めに対策を打つことが大切です。思い通りの結果を出せなかったケースの要因に、エンジンがかかるのが遅すぎたというのがあります。2年生の皆さん、今の時期に、今日家で何を学習すべきか答えられないなら、焦ってください。そして、即担任の先生に相談し、スタートダッシュを切ってください。